



**「置賜GW」**  
 みなさん。ゴールデンウィークはいかがでしたか？  
 僕は特にいつもと変わらぬ日々でしたが、一っだけ気づいてしまいました。それは、「米沢上杉まつり」の開催に合わせて、全国から人が集まってくるということです。ある日、運転していたら前後の車が他県ナンバー。それも関東、関西方面のナンバー。すれ違う車も他県ナンバー。スーパーの駐車場も他県ナンバー。まつりが開催されています。川西町に暮らしていたときは何気に気づかなかったのです。なぜか？それは、全国から上杉まつり目的で人は集まれど、隣の川西町にはステイして行ける観光客が少ないからだと思えます。これは、仕方がない事なのです。東京観光に行くと、埼玉の川口でステイする。という発想は地元の人でない、この感覚、わかりませぬからね。何が言いたのか？それは「もったいないmottainai」と思うわけです。年に一度のGWに世界中の中から、あえて米沢観光を選んだなら、近隣の市町村もまわってもらえればいいのにな

そうだ！  
 田舎にくらそう



2016.

元・川西町地域おこし協力隊の6年後のお話。企画・構成・文・撮影etc...全部：漆貴旭 イラストモデル：チャッピー（元・小方家）



何が言いたのか？それは「もったいないmottainai」と思うわけです。年に一度のGWに世界中から、あえて米沢観光を選んだなら、近隣の市町村もまわってもらえればいいのにな。もちろん、観光地になっているところは旅行者も調べていると思いますが、置賜というのはキラキラした観光地ではなく、何かローカルな日常を楽しむ場所だと思っただけ。はじめ来た人には、何処とない自然な時間を提供したいものです。置賜歴6年でも、僕はまだ、そう思います。グローバリ化と騒がれたしたのは、意外と古く、僕が高校生の頃にはテレビでもよく聞く言葉だったような。つまり、結構前。国のグローバリ化という規模でなくても、置賜のグローバリ化で各市町村が連携して、トータルプランニングできれば、置賜ツアーの真髓が、この貴重なGWというチャンスに、観光客へ提供できるかも。GW中の観光客。これは間違いなく取り合いです(笑) まさに、グローバリワーク(GW)ということですね。

樺坂46「サイレントマジョリティー」のPVがやたらカッコイイ。日本人の美意識をくすぐるものがある。と、僕は思う。あどけない少女が片手を挙げて迫ってくる。顔の前に手を広げ、集団を統率する。ジャンヌダルクの「Follow me!」と同じような緊張感。カメラのカットもかっこよく、リーダーが両手を広げると、メンバー全員が立ち上がる。

日本には「不完全さがつくる、完全なものに対する美」が根付いている。明らかにリーダーらしい人が統率する集団より、リーダーに思えないが、一瞬の輝きを持つ人間が、一瞬だけ統率する集団を美しいと感じる。

この曲の歌詞は「大人の言いなりになるな。やりたいことをやれ。自分を信じて突き進め」とありがちな若者の葛藤を歌っているが、この「ありがち」がPVのリーダーの少女に見事にシンクロする。

もし、強そうな女性がリーダーだと、このPVの世界観は押し付けがましくなる。もし、おしとやかな女性だと嘘だと感じる。

昔からヨーロッパは個人主義だとされているが、現代でも個人主義という概念は、海外と日本では違うはずである。学術的な背景はおいといて、単に、このPVは日本以外の国に美意識が伝わるのか気になるところ。

何事にも縛られないことを美しいと感じる国では、この美意識は生まれにくい。日本文化は過去何世紀にわたり不都合さから美が生まれ、何かを越えてきたと、ただ感じる今日この頃。

サイレントマジョリティー

(英: silent majority)とは、「物言わぬ多数派」という意味。積極的な発言行為をしないが大多数である勢力のこと。